

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

市町村名	南越前町
所属名	保健福祉課
担当者名	竹内亮子

※作成にあたっては、「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)JP38～47を参考してください。

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

第8期介護保険事業計画に記載の内容				R5年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標(事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
①	地域ふれあいサロンの1回あたりの参加者数は年々減少し、平均10人(令和2年度実績)まで落ち込んでおり、担い手不足や継続が困難な地区がある。	○サロンに参加しない高齢者にも配慮しながら、サロン継続のための支援に取り組む。 ○サロン運営について、協力員や区長、民生委員、介護予防サポーター等と協同し、近接地区との合同開催や他地区の受け入れ開催等のマッチングをはかる。	○ サロン会場毎の開催回数増 R3年度 54会場 延700回 平均12.9回 延7,300人 R4年度 57会場 延800回 平均14.1回 延8,300人 R5年度 57会場 延900回 平均15.8回 延8,800人	●サロン会場毎の開催回数 R5年度 57会場 延846回 平均14.9回 延9,017人 1回あたりの参加者数平均10.7人 ・会場数、延回数、平均回数、延参加者は過去最高 ・年に12回以上開催する地区数 47(全体の82.5%) ●新規サロン立上げの支援と一般介護予防事業等との連携 ●民生委員等との情報交換 ●サロン協力員や民生委員に対し、介護予防サポーターやフレイル(虚弱)予防サポーター養成講習への参加勧奨(特に男性)、講習後のサロン参加への支援 ●サロンと介護予防サポーターが実践する活動のつなぎ(マッチング) ●近接地区との合同開催や他地区の受け入れ開催等への支援 ●サロン参加に関わらず山海里体操(一般介護予防事業)の周知等による自主的な健康づくりの意識づけ	○	【課題】 ・新規利用や継続開催へつながる支援の強化 ・1会場当たりの参加人数の維持または増加、特に男性への参加促進 ・民生委員等の関係機関との連携を含めたサロンに参加しない高齢者の実態把握 ・高齢者の自主的な健康づくりへの支援(サロン以外) 【対策】 ・近接地区との合同開催や他地区の受け入れ開催等への支援継続 ・民生委員やサロン協力員に対する介護予防サポーターやフレイル(虚弱)予防サポーター養成講習への参加勧奨や、講習後のサロン参加への支援継続 ・サロンと介護予防サポーターが実践する活動のつなぎ(マッチング)の継続 ・民生委員会や訪問等での情報収集 ・山海里体操の周知等による自主的な健康づくりの意識づけ
①	元氣な高齢者が社会の中で役割を持つことが、高齢者自身の介護予防や生きがいにつながるから、高齢者をこれからの地域を担う重要なマンパワーとして位置づけ、その地域活動を積極的に支援することが必要。	○ 脳元氣お助け隊講習会(介護予防サポーター養成講座)による人材の育成・登録 ○ サポーターの活動内容の共有、活躍の場とのマッチング等による参加者兼支援者としての役割強化	○ 脳元氣お助け隊講習会(介護予防サポーター養成講座)の開催 毎年度 1クール6回で実施 ○ 介護予防サポーター登録者数を増やす R3年度 93人 R4年度 103人 R5年度 118人	● 脳元氣お助け隊講習会(介護予防サポーター養成講座)の開催 回数 1クール計6回/年 開催日 令和5年7月～8月 修了者実人員 9人 ○ 介護予防サポーター登録者数 登録者累計112人 ● 短期集中はつらつ教室、介護予防のつどい、フレイルチェック、早期認知症把握事業、ふれあいサロン等へのボランティア活動の紹介と参加勧奨等のマッチング ● 広報誌での介護予防サポーターの活動紹介	○	【課題】 ・サポーターの活動意欲と参加に個人差がある ・教室修了者の地区活動やボランティア活動への円滑な参加の推進 【対策】 ・サポーターに対するアンケートによる活動実態や意向調査の継続 ・サロンやフレイル(虚弱)チェック等、活動の場の情報提供による活動意欲の向上の推進 ・スキルアップセミナー等の内容の充実 ・地域ふれあいサロンへの支援実績により助成される、介護予防サポーター加算についての周知
①	「認知症カフェ」や「介護者のつどい」の実施回数が少なく、介護者同士の交流の機会が得にくい現状があった。「認知症カフェ」の充実を図り、認知症の方本人の社会参加や介護者同士の交流を通じて、介護ストレスの軽減に繋げていくなどの家族支援が必要。あわせて、認知症サポーター養成講座後の地域での活動について支援していく。	○ 「認知症カフェ」を設置する際に開設費、運営費を補助。運営方法などの活動支援 ○ 活動意欲のある認知症サポーターがボランティアとして運営に携わることで、サポーター養成後の地域での活躍の場を創出	○ 「認知症カフェ」設置回数増 R3年度 3会場 実施回数12回以上 R4年度 3会場 // R5年度 4会場 実施回数20回以上	● 認知症カフェ設置数 R4年度 2会場 実施回数 0回 R5年度 3会場 実施回数 5回 ● 認知症カフェ運営補助金の周知と利用の支援 R5年度補助金申請件数 1件 R5年度認知症カフェ実施事業所 3事業所 ● 開催時の運営支援 ・ 居宅介護支援事業所、医療機関へチラシ配布、講師紹介 ● 認知症サポーター活動の推進 ・ ボランティア活動の案内 ・ ボランティア参加回数2回(延べ10人参加)	△	【課題】 ・ 河野地区における周知方法と参加しやすい環境整備 ・ 感染予防を踏まえた実施の継続 ・ 運営ボランティアの確保 【対策】 ・ 医療機関等関係機関への配布等による周知策の強化、参加方法の検討や周知 ・ 事業所への講師紹介、運営内容等の助言等の支援の継続 ・ 認知症サポーター養成講座等終了時の事業紹介や活動アンケートの実施 ・ 認知症カフェ未実施事業所への事業内容の周知と、実施に向けた支援
②	高齢化が加速し、介護サービスが必要な高齢者が増加している。過度なサービス提供に至らないよう、適切なケアプランとなっているかの検証確認が必要。ケアプラン作成においては、介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの質の向上を支援し、介護給付の適正化へつなげる。	○ 保険者、主任介護支援専門員、ケアプランを作成した介護支援専門員が協働してケアプラン点検を実施 ○ 介護支援専門員に対し、地域ケア個別会議における多職種での事例検討により、自立支援の視点への気づきを促す ○ 実施指導にて、ケアマネジメント実施状況の検証確認を行う。 ○ 福祉用具の例外給付や居宅介護支援事業所における特定事業所集中減算対象事業所等へのケアプラン点検を行う。	○ ケアプランの点検実施 R3年度 12件 R4年度 12件 R5年度 12件	● ケアプランの点検 12件 ・ ケアマネ協働点検 (4件) ・ 地域ケア個別会議 (6件) ・ 実施指導 (2件)	○	【課題】 ・ ケアプラン点検後の介護支援専門員の意識の変化によるケアプランや支援内容がどのように変わっているのか等の確認や客観的な評価できていない。 【対策】 ・ 介護支援専門員とケアプランの協働点検を実施した利用者の介護度を確認する。 ・ ケアプラン点検シートを活用し、「ケアプランの記載の充実度」や「面談時の確認ポイント」を可視化し、次の評価の資料として活用する。
①	助け合い活動に意欲のある住民が集まり、地域の現状を知り目指す地域像や地域にとって必要な活動などを話し合い、活動の場を設けて子どもから高齢者まで誰でも参加できる集いの場を今庄地区で行っている。また今年度から町内初の第2層協議体として活動している。今後はその他の地域においても地域での活動を発展させ、第2層協議体を広めていく必要がある。	○ 今庄地区の活動や打合せの場に生かされるボランティアや行政職員も参加し構成員が主体的に活動できるよう支援する。 ○ その他の地域にも第2層協議体を設置するために、興味を示している方々に活動のアドバイスや現在ある第2層協議体の活動の見学を実施。	○ 第2層協議体の設置 R3年度 1件 R4年度 1件 R5年度 2件	● 第2層協議体の設置 今庄地区「みんなの集まり」が今後第2層協議体として活動していくため、県の立ち上げ支援事業を活用(実施回数 1回) ● 活動支援 ○ 月1回の活動及び打ち合わせに参加 ● 他団体等との交流活動 自治会、観光協会、サロン、老人クラブなど地域団体との交流を図る。	△	【課題】 ・ 活動の充実と地域の拡大、協議体メンバー・参加者の不足 ・ 今庄地区「みんなの集まり」の活動は第3層協議体の位置づけとなり、現状では第2層の役割を担うのは困難 【対策】 ・ サロン協力員や他協会の登録ボランティア、地域関係団体の方々へ今庄の活動に参加してもらい、活動や運営メンバーを増やす ・ 実績報告会などの実施で活動を周知し、集まりへの参加を促し、地域のことに関心をもってもらう。 ・ 地域のことを考える機会(協議の場)の創出を支援する。